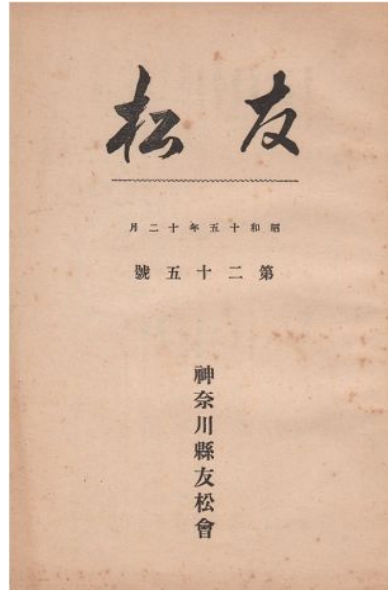


「友松」の変遷 II

▽ 友松廃刊



昭和十五年十二月に発行された「友松」(二十五号)は、三十三頁のもので、以前のものに比べると、とても薄い冊子になっている。

この年は、皇紀元二千六百年、日本は総力を挙げて、この記念すべき年を祝福していた。

しかし、ヨーロッパ大戦を契機に世界の動きが複雑多岐になり、この年のオリンピックは中止になり、日本で開かれる予定だった万国博覧会も中止になっている。

そして、翌年の昭和十六年には、太平洋戦争が勃発する。

二十五号の会長挨拶(水島藤吉)に、

「我が教育界に於いても、自我功利の思想を排撃し、皇道実現の信念を体得し、以て次代の国運発展を担当し、八紘一宇の肇国精神の發揮により、東亜諸国を指導し得る大国民を養成せねばならぬ、かかる教育百年の大計を図るべく、来年度より国民学校の誕生を見んとするは洵に喜ばしき限りである。(中略)

今こそ我が優秀なる友松会員諸君は、奮然蹶起し、打つて一丸となり、よく学校の中核、他教師の指導者となり、日夜聖旨を奉戴し、教育の革新、建設に全力を尽くし、以大御心に副ひ奉る一大決心を固めなければならぬと深く信ずる次第である」

と、時代を反映する文を書いている。

「友松」は、この後、二十六号が発行されると、しばらくの間廃刊となる。戦時下、財政難等々の理由から発刊出来なくなったようである。

▽ 友松の復刊（新聞型）



昭和二十四年十一月、会誌が復刊された。右の写真が復刊された「友松」であるが、A3版四ページのもので、新聞型のものである。

復刊号（二十七号）に会長は次のように書かれている。

「（前略）今、終戦四年にして、ささやかなりとは言え、この会報に面し、感慨深いものがあると共に、生きた友松会そのものの息吹を感じる。

空襲必至と見ての会館の処分、三十万近い基金を得て安心したのも束の間、封鎖、インフレ等で、又、元の黙阿弥、

その間、主事西川先生を中心に役員各位の御努力、思えば言語に絶した会の受難期でもあった。（後略）」

会務の概略をみると、昭和二十三年五月に評議会を開き、会長に小林梅茂氏を満場一致で選出している。

事業計画は、

- 1 会報の発行（年二回位）
 - 2 会員名簿の編集
 - 3 弔慰金の増額
 - 4 会員特志者の研究費補助
 - 5 会員の与論調査
 - 6 同期生代表者との連携
 - 7 母校教育施設の後援
- 等を計画実施することになっている。

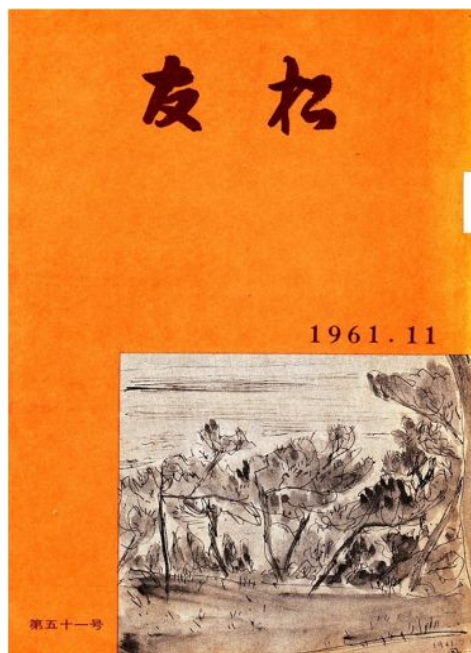
この新聞型の友松は、十二年の間に五十号まで発行されている。

五十号で、小林会長は、次のように述べている。

「会報も五十号を迎え、昭和も三十六歳を重ねた。（中略）本会は五部門に部制を採用して二年、会費を増額して、各部の事業を拡充したいとの結論となり、理事会の承認を受けた。（会費・年額三〇〇円）（後略）」とある。

この頃、本会の部制の根幹が定着したといえよう。

▽ 「友松」(冊子型)復活



会誌の「友松」は、五十一号から右のような冊子型になり、表紙に色を使用するようになり、会員の絵を入れるようにもなった。また、冊子の扉を上質紙にして写真を入れるなど、現在の会誌の原型となっている。

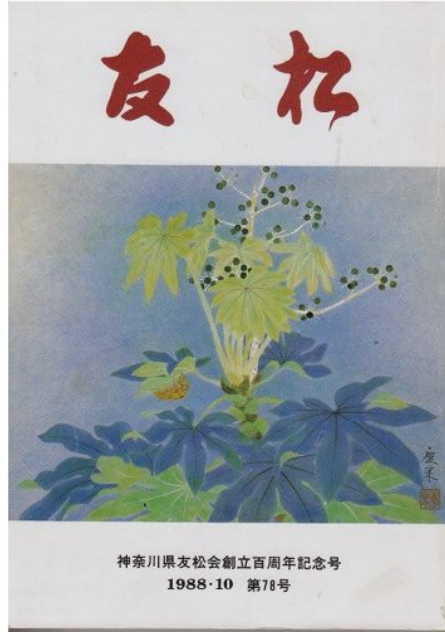
昭和三十五年の会員数は、五、四二六人で、予算額は約百六十万円(会費・三〇〇円)と記録されている。

当時の問題点としては、母校の移転問題があげられ、友松会として、母校が、横浜清水が丘に移転することに反対している。



右の二枚の写真は、五十号の扉に掲載された当時の横浜国大学芸学部(旧神奈川師範)と、当時の国大付属横浜小中学校(旧神奈川女子師範)である。

このような型の会誌は、年に一回発行され、六十六号まで続いている。昭和四十一年発行の五十六号からは、会誌の紙が上質になっている。これまでは、わら半紙のような紙に印刷されていたが、上質の紙になったということは、戦後二十年経ち、世の中が落ち着いてきたからであろう。こんな所にも世相がうかがえる。



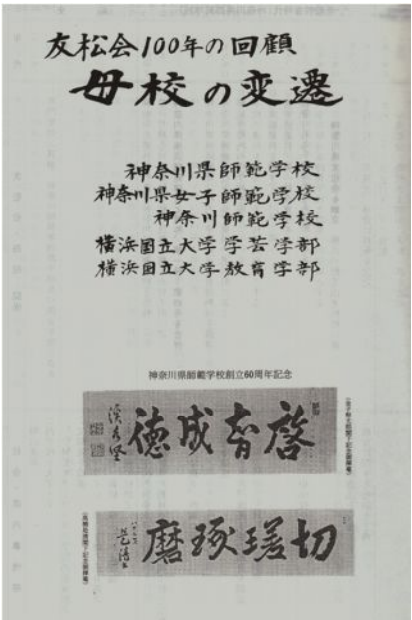
第七十八号は、友松会創立百周年記念号で、三〇〇頁を上回る立派な記念号である。

慶祝メッセージ、母校の変遷、友松会の歩み、支部だより、広い分野で、部活動・寄宿舎生活等々の掲載文と沢山の写真で編集されている。創立百年の想いが、記念号全編にあふれている。

母校の変遷の頁にある、金子堅太郎の書と高橋是清の書は師範創立六十年記念に揮毫されたものである。

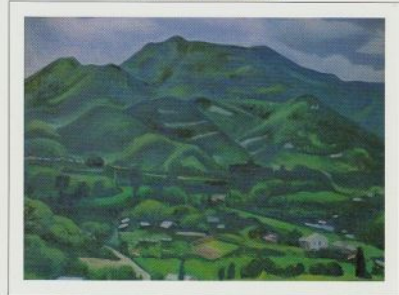
老松校舎時代(神奈川県師範学校)		前	史
1888	1888年10月	1888年10月	1888年10月
1889	1889年10月	1889年10月	1889年10月
1890	1890年10月	1890年10月	1890年10月
1891	1891年10月	1891年10月	1891年10月
1892	1892年10月	1892年10月	1892年10月
1893	1893年10月	1893年10月	1893年10月
1894	1894年10月	1894年10月	1894年10月
1895	1895年10月	1895年10月	1895年10月
1896	1896年10月	1896年10月	1896年10月
1897	1897年10月	1897年10月	1897年10月
1898	1898年10月	1898年10月	1898年10月
1899	1899年10月	1899年10月	1899年10月
1900	1900年10月	1900年10月	1900年10月
1901	1901年10月	1901年10月	1901年10月
1902	1902年10月	1902年10月	1902年10月
1903	1903年10月	1903年10月	1903年10月
1904	1904年10月	1904年10月	1904年10月
1905	1905年10月	1905年10月	1905年10月
1906	1906年10月	1906年10月	1906年10月
1907	1907年10月	1907年10月	1907年10月
1908	1908年10月	1908年10月	1908年10月
1909	1909年10月	1909年10月	1909年10月
1910	1910年10月	1910年10月	1910年10月
1911	1911年10月	1911年10月	1911年10月
1912	1912年10月	1912年10月	1912年10月
1913	1913年10月	1913年10月	1913年10月
1914	1914年10月	1914年10月	1914年10月
1915	1915年10月	1915年10月	1915年10月
1916	1916年10月	1916年10月	1916年10月
1917	1917年10月	1917年10月	1917年10月
1918	1918年10月	1918年10月	1918年10月
1919	1919年10月	1919年10月	1919年10月
1920	1920年10月	1920年10月	1920年10月
1921	1921年10月	1921年10月	1921年10月
1922	1922年10月	1922年10月	1922年10月
1923	1923年10月	1923年10月	1923年10月
1924	1924年10月	1924年10月	1924年10月
1925	1925年10月	1925年10月	1925年10月
1926	1926年10月	1926年10月	1926年10月
1927	1927年10月	1927年10月	1927年10月
1928	1928年10月	1928年10月	1928年10月
1929	1929年10月	1929年10月	1929年10月
1930	1930年10月	1930年10月	1930年10月
1931	1931年10月	1931年10月	1931年10月
1932	1932年10月	1932年10月	1932年10月
1933	1933年10月	1933年10月	1933年10月
1934	1934年10月	1934年10月	1934年10月
1935	1935年10月	1935年10月	1935年10月
1936	1936年10月	1936年10月	1936年10月
1937	1937年10月	1937年10月	1937年10月
1938	1938年10月	1938年10月	1938年10月
1939	1939年10月	1939年10月	1939年10月
1940	1940年10月	1940年10月	1940年10月
1941	1941年10月	1941年10月	1941年10月
1942	1942年10月	1942年10月	1942年10月
1943	1943年10月	1943年10月	1943年10月
1944	1944年10月	1944年10月	1944年10月
1945	1945年10月	1945年10月	1945年10月
1946	1946年10月	1946年10月	1946年10月
1947	1947年10月	1947年10月	1947年10月
1948	1948年10月	1948年10月	1948年10月
1949	1949年10月	1949年10月	1949年10月
1950	1950年10月	1950年10月	1950年10月
1951	1951年10月	1951年10月	1951年10月
1952	1952年10月	1952年10月	1952年10月
1953	1953年10月	1953年10月	1953年10月
1954	1954年10月	1954年10月	1954年10月
1955	1955年10月	1955年10月	1955年10月
1956	1956年10月	1956年10月	1956年10月
1957	1957年10月	1957年10月	1957年10月
1958	1958年10月	1958年10月	1958年10月
1959	1959年10月	1959年10月	1959年10月
1960	1960年10月	1960年10月	1960年10月
1961	1961年10月	1961年10月	1961年10月
1962	1962年10月	1962年10月	1962年10月
1963	1963年10月	1963年10月	1963年10月
1964	1964年10月	1964年10月	1964年10月
1965	1965年10月	1965年10月	1965年10月
1966	1966年10月	1966年10月	1966年10月
1967	1967年10月	1967年10月	1967年10月
1968	1968年10月	1968年10月	1968年10月
1969	1969年10月	1969年10月	1969年10月
1970	1970年10月	1970年10月	1970年10月
1971	1971年10月	1971年10月	1971年10月
1972	1972年10月	1972年10月	1972年10月
1973	1973年10月	1973年10月	1973年10月
1974	1974年10月	1974年10月	1974年10月
1975	1975年10月	1975年10月	1975年10月
1976	1976年10月	1976年10月	1976年10月
1977	1977年10月	1977年10月	1977年10月
1978	1978年10月	1978年10月	1978年10月
1979	1979年10月	1979年10月	1979年10月
1980	1980年10月	1980年10月	1980年10月
1981	1981年10月	1981年10月	1981年10月
1982	1982年10月	1982年10月	1982年10月
1983	1983年10月	1983年10月	1983年10月
1984	1984年10月	1984年10月	1984年10月
1985	1985年10月	1985年10月	1985年10月
1986	1986年10月	1986年10月	1986年10月
1987	1987年10月	1987年10月	1987年10月
1988	1988年10月	1988年10月	1988年10月

「母校・友松会沿革年表」



友松

創立110周年 記念号



友松会
横浜国立大学教育学部同窓会

第八十八号は、友松会創立百年記念号である。この号も二〇〇頁を超える物で、カラー写真の頁が三十頁にもなっている。その内の多くの頁に、記念絵画展の作品（カラー）が掲載されている。

目次をみると、百十周年祝辞（県教育長・横浜市教育長・川崎市教育長・国大学長等）、百十周年記念絵画展、あれから十年、特別寄稿、豊かな教育を語る集い報告、松澤賞受賞者報告、同期会、会員ひろば、本部・支部日より、各部署活動状況等々の記事が満載である。

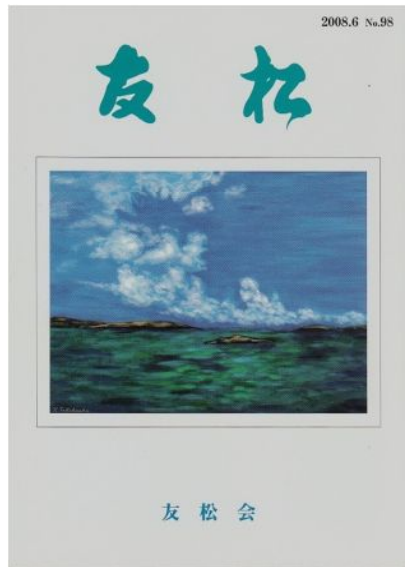
1992 第82号	1991 第81号	1990 第80号
平成4年	平成3年	平成2年
2・8 新春のつどい （横浜 年賀） 友松会員名簿作 成発行 5・23 評議員会 改選 10・25 総会 （横浜中央小 学校） ●講演「わが人生」 鹿嶋静光市長	1・26 新春のつどい （横浜国際ホテル） 国際交流事業基 金基金 10・27 総会 （松田町民文化 センター） ●講演「人生と健 康管理」吉貞貞 夫博士	2・17 新春のつどい （横浜国際ホテル） 総会（横浜本町小 学） ●講演「私の見た 日本」田 軍マサヨ
早出 彦 仁 金子 保 穂	鶴見 尚 弘 江 藤 正 一	鶴見 尚 弘 江 藤 正 一
磯 茂 上 井 長 山 角 井 田 和 田 本 報	金子 保 穂 子 保 穂 山 上 山 井 長 安 府 本 報	磯 茂 上 井 長 山 角 井 田 和 田 本 報

		百周年から百十周年へ 会誌「友松」 こ と が ら
1989 第79号	1988 第78号	
平成元年	昭和63年	年度
2・4 新春のつどい （横浜 年賀） 友松会員名簿作 成発行 10・29 総会 （横浜本町小 学） ●講演「百歳の輝 け」井上博定 ●「友松」記念行事 報告号発行	10・30 創立百周年記念総 会（横浜 本町小 学） ●式典・祝賀 ●横浜市議員美術展 （有隣堂ギャラリー 一他） ●「友松」創立百周 年記念号発行	
鶴見 尚 弘 江 藤 正 一	鶴見 尚 弘 小 倉 作 三	名誉会長 会 長
金子 保 穂 子 保 穂 山 上 山 井 長 安 府 本 報	磯 茂 上 井 長 山 角 井 田 和 田 本 報	副 会 長

1998 第88号 創立百十周年記念号			1997 第87号			1996 第86号		
平成10年			平成9年			平成8年		
2・7	新春のつどい (横浜 寿宴)	2・11	新春のつどい (横浜 寿宴)	2・3	新春のつどい (横浜 寿宴)			
5・30	評議員会、役員 改選			10・26	総会 (神戸市社文 会会館ミニニ ティホール)			
10・17	創立110周年記念 総会(湯本富士 屋ホテル)	10・26	総会 (平塚 スポーツ プラザ跡中)					
	●講演「北原白秋 と小田原」三津 木國輝先生	10・30~11・4	創立110 周年記念絵画展 (アートギャラ リー)	11・16	豊かな教育を語 る会(青少年育 成センター)			
11・21	豊かな教育を語 る会(横浜 旗 岡センター)	10・1	横浜国立大学教 育人類科学部開 校					
11・2・6	新春のつどい (横浜 寿宴)	11・1	豊かな教育を語 る会(旗ノブ ラ)					
平出 彦 仁	平出 彦 仁	平出 彦 仁	平出 彦 仁	平出 彦 仁	平出 彦 仁			
織 茂 慎	金子 保 雄	織 茂 慎	金子 保 雄	織 茂 慎	金子 保 雄			
伊 達 雄 樹 佐 藤 重 次 山 本 重 夫 小 尾 純 一 小 尾 純 一 小 尾 純 一	織 井 上 和 賀 雄 木 井 重 夫 尾 崎 金 次 和 野 乙 石	織 井 上 和 賀 雄 木 井 重 夫 尾 崎 金 次 和 野 乙 石	織 井 上 和 賀 雄 木 井 重 夫 尾 崎 金 次 和 野 乙 石	織 井 上 和 賀 雄 木 井 重 夫 尾 崎 金 次 和 野 乙 石	織 井 上 和 賀 雄 木 井 重 夫 尾 崎 金 次 和 野 乙 石			

1995 第85号			1994 第84号			1993 第83号		
平成7年			平成6年			平成5年		
2・4	新春のつどい (横浜 寿宴)	2・5	新春のつどい (横浜 寿宴)	2・6	新春のつどい (横浜 寿宴)			
6・3	役員改選	6・5	評議員会 会費 徴上げ状況	4・12	事務局移転 (神奈川県樹 木園「果実園」へ)			
10・28	総会 (横浜賢べいサ イドホケット)	10・22	総会 (横浜 寿宴)	10・31	総会 (山崎(会館とど ろき))			
	●講演「F3坂道 り周辺は今昔」 石井 昭先生	11・12	豊かな教育を語 る会(さざんく ろす)		●講演「情報化社 会の子どもたち は今」 小川信夫先生			
10・2	事務局移転 (西区 果樹派 西合同庁舎へ)							
11・11	豊かな教育を語 る会(さざんく ろす)							
平出 彦 仁	平出 彦 仁	平出 彦 仁	平出 彦 仁	平出 彦 仁	平出 彦 仁			
金子 保 雄	金子 保 雄	金子 保 雄	金子 保 雄	金子 保 雄	金子 保 雄			
織 茂 慎 伊 達 雄 樹 佐 藤 重 次 山 本 重 夫 小 尾 純 一 小 尾 純 一	織 井 上 和 賀 雄 木 井 重 夫 尾 崎 金 次 和 野 乙 石	織 井 上 和 賀 雄 木 井 重 夫 尾 崎 金 次 和 野 乙 石	織 井 上 和 賀 雄 木 井 重 夫 尾 崎 金 次 和 野 乙 石	織 井 上 和 賀 雄 木 井 重 夫 尾 崎 金 次 和 野 乙 石	織 井 上 和 賀 雄 木 井 重 夫 尾 崎 金 次 和 野 乙 石			

昨年、創立百二十周年記念号(九十八号)が発行された。明治二十一年(一八八八年)に発足した友松会は、百二十年という輝かしい歴史歩んできた。その間の、会誌「友松」の変遷をたどってきたが、時代と共に、体裁も内容も著しく変わってきたことが解る。これからも、友松会の発展と共に会誌「友松」の益々の充実を図りたいものだ。



創立 120周年記念号